

日本国外務省大臣よりファン・ファイ・レ教授への感謝状授与式における

家族代表ファン・ニュ・ラン婦人の謝辞

この度は亡くなった主人、ファン・ファイ・レに日本国外務省大臣より感謝状をご贈呈頂き、家族を代表いたしまして心より厚く御礼を申し上げます。

主人は、儒学者の氏族の一員として生まれましたが、青春時代に Dao Duy Anh 先生、Tran Van Giau 先生、Nguyen Manh Tuong 先生、Tran Duc Thao 先生をはじめ、フランスの教育を受けた学者から直接ご指導を受けられました。そのため、主人は早くから文化の多様性や、学問の自由性、国際協力の重要性を強く意識しました。主人は最初ベトナム古代・中世史の研究を自分のライフワークとして選びましたが、研究・教育事業を進めていくうちに、個別の専門分野、時代、そして民族、国境を越え、学際的かつ国際的なネットワーク構築に焦点を当てるようになりました。

ベトナムの学問的な国際協力を促進する際に、主人は特に日本との関係を重要視し、1980年代の半ばから、山本達夫先生、川本邦衛先生、桜井由躬雄先生、古田元夫先生、坪井善明先生など、日本の一流学者との交流を開始しました。主人の創立したベトナム研究センターは、数多くの日本人の研究者や留学生を受け入れ、皆さんのベトナムにおける学習や研究を支援させて頂きました。そして、ベトナムにおける日本研究を本格化させるために、1990年代前半から主人はハノイ国家大学で日本研究学科を設立し、今まで多くの日本研究者を育成してきました。その一方、主人の展開した研究・教育事業や文化遺産保存事業は、多くの日本の方々に信頼され、様々な形でサポートしていただきました。その代表的な事例は、タンロン皇城遺跡の保護活動、及び同遺跡の世界遺産への登録事業です。

日本人との交流の中では、研究者のみならず、駐ベトナム日本大使館の方々も多くいらっしゃいます。約1年ほど前にここ大使公邸で主人は初めて梅田邦夫大使にお目にかかり、懇談する機会に恵まれました。こうしてこの40年間、主人は学者として両国の相互理解に貢献しました。

本日はファン・ファイ・レ家として日本大使公邸に招待され、梅田邦夫大使より、日本国外務省大臣の感謝状をご贈呈頂き、大変光栄に存じます。今後とも、主人の力を入れた両国のネットワークがより一層広がっていくことを心より祈念致します。

本日は誠にありがとうございました。